

1 はじめに

犯罪の起きにくい社会づくり推進・応援企業の皆様には、日頃より警察業務各般にわたり、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、前回の「犯罪の起きにくい社会づくり推進・応援企業通信（vol.19）」でも掲載いたしました、特殊詐欺について特集します。

2 特殊詐欺の認知状況

平成29年中の県下の特殊詐欺の認知状況（暫定値）は、191件、約5億5,230万円の被害を認知しました。

平成28年と比較したところ、全体で7件、1億9,730万円の増加となり、中でもオレオレ詐欺は、19件、約8,310万円、架空請求詐欺は、32件、約1億7,740万円の増となってしまいました。

特殊詐欺の認知状況		認知件数	被害額
振り込め詐欺	オレオレ詐欺	50件	1億4,930万円
	架空請求詐欺	93件	3億4,400万円
	融資保証金詐欺	7件	420万円
	還付金等詐欺	36件	3,790万円
振り込め以外詐欺	金融商品等取引	2件	710万円
	ギャンブル必勝情報	1件	10万円
	異性交際あっせん	0件	0万円
	その他	2件	970万円
合計		191件	5億5,230万円

※ 被害額欄については、四捨五入の関係で、被害額の合計と個別被害額の合計とは一致しません。

3 特殊詐欺の手口と対策

昨年多発した特殊詐欺の手口や特徴等を掲載していますので、社員や顧客の皆様への広報をよろしくお願いいたします。

(1) オレオレ詐欺

息子や孫などになりすまして、被害者の心理を上手く利用して、現金をだまし取る詐欺をいいます。

■ 手口

- 犯人が息子などをかたり、被害者に電話する
- 続けて「会社の金を使い込んだ」「仕事の書類が入ったカバンをなくした」「友人の保証人になった」などと言って、すぐにお金が必要だと持ちかける
- 被害者に冷静さを失わせ、現金を用意させる
- 会社の同僚・上司・知人と名乗る者が自宅付近まで現金を受取りに来たり、宅配便で現金を送付させる



■ 特徴

被害者のほとんどが65歳以上の高齢者

■ 対策

電話でお金のお話が出た場合等には、詐欺を疑い一旦電話を切り、家族や警察等に相談するように広報してあげてください。

(2) 架空請求詐欺

有料サイトの登録料や利用料等を請求し、コンビニで電子マネーを購入させたり、コンビニ決済を利用させたりしてお金をだまし取るものをいいます。

■ 具体例

- 被害者が携帯電話等でインターネットを使用中、突然画面に料金請求のメッセージが表示される、メールで有料サイトの未納料金等を請求される
- 被害者が表示されている連絡先に電話をかける
- 「コンビニで電子マネーを購入し、カード番号を教えてください。」などと支払方法を指定される
- 番号を伝えると、電子マネーの額面の金額をだまし取られる



■ 特徴

若者から高齢者まで幅広い年齢層での被害の発生

■ 対策

身に覚えのない請求は無視をしていただき、正当な請求かどうか不安になった場合には警察に相談するように広報してあげてください。